

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成20年7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2872700436		
法人名	社会福祉法人 きたはりま福祉会		
事業所名	グループホームりんりの里		
所在地	兵庫県多可郡多可町中区鍛冶屋763番地の3 (電話) 0795-32-3330		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年6月2日	評価結果確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】 (20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,200 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	有(円) 〇		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		860 円

(4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	5	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	81 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中町赤十字病院 西脇市民病院
---------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ敷地内に併設されている特別養護老人ホームやケアハウス等とともに、法人全体で地域に貢献できる施設づくりを目指している。更にホームは「身近で家庭的な関係でありたい・・・」と独自の理念を掲げ日々のケアに反映できるよう努めている。ホーム内のリビング天井は吹き抜けの為明るく開放的で、温もりが感じられる床や壁の色と暖色系の照明との調和が入居者に安らぎの空間を与えている。職員は入居者の人格を尊重し、日々の暮らしのコミュニケーションの中で入居者一人ひとりと目線をあわせ優しい言葉掛けや対応を心掛け、入居者主体の支援になるよう取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	管理者・職員は評価結果を踏まえ、勉強会において改善点を検討し、サービスの質向上に取り組んでいる。評価結果は運営推進会議で報告し、地域住民の理解を得ている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価作成に当たり、職員に評価の意義の理解を図り、管理者が関わりまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	会議は現在までに2回開催し、ホームの現状や第三者評価等について報告し、参加者間での意見交換の場となるよう働きかけている。会議への参加については施設から働きかけ、報告や掲示により家族に周知しているが、充分とは言えない。ワムネットの活用等を今後取り組んでいくことを期待している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	定期的に面会に来られる家族が多く、家族来所の際に、ご利用者の身体状況・日常生活を詳細に説明し、情報の交換を行っている。また、2ヶ月に1回の広報紙の配布などを利用し、より家族との関わりを深めるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地域からの打診もあり、消防活動も避難訓練をはじめ密になりつつある。法人による納涼祭には婦人会や民生委員の参加もあり、今後も活発な活動が期待される。2ヶ月に1回発行している広報紙を地域に配布し、ホームへの理解を深めていく為の働きかけを行っている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との連携について法人独自の基本理念と運営方針を作成し、ホーム内に掲示している。地域密着型サービスとしての役割を理解し、地域との関わりを大切にしたい理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所とルーム内に掲示すると共に、定期的なミーティングでも管理者と職員が理念を念頭において話し合い、日々のケアの実践に活かせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が実施する納涼祭への婦人会・民生委員の参加・避難訓練をはじめ消防活動の協力等連携を図り、活発な活動がなされている。2ヶ月に1回発行している広報紙を地域に配布し、ホームへの理解を深めていく為の働きかけを行っている。		地域行事への参加・地域住民との交流が活発に行われている中で、地域住民のホーム行事への参加についての取り組みを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者・職員は評価結果を踏まえ、勉強会において改善点を検討し、サービスの質向上に取り組んでいる。評価結果は運営推進会議で報告し、地域住民の理解を得ている。自己評価作成に当たり、職員に評価の意義の理解を図り、管理者が関わりまとめた。</p>		<p>自己評価は職員間での意識の統一や日常のケアの振り返りの機会として職員一人ひとりが点検していく取り組みが望まれる。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は現在までに2回開催し、ホームの現状や第三者評価等について報告し、参加者間での意見交換の場となるよう働きかけている。会議への参加についてはホームから働きかけ、報告や掲示により家族に周知しているが、さらに充実させるためワムネットの活用等を考慮中である。</p>		<p>運営推進会議の意義や役割を地域住民・家族に継続的に伝え、積極的に参加してもらえるよう働きかけ定期的な運営推進会議開催の開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市・町が関わって、定期的に福祉事業者の参加によるチームケア会議が開催され、交流を図っている。さらに会議を充実させるため、市・町に働きかけており、市・町の職員や他施設のスタッフとの交流の効果がでている。</p>		<p>市町職員との交流が深まることで活気が出たり職員の刺激となることを期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的に面会に来られる家族が多く、家族来所の際に、ご利用者の身体状況・日常生活を詳細に説明し、情報の交換を行っている。また、二ヶ月に1回の広報紙の配布などを利用し、より家族との関わりを深めるよう努めている。</p>		<p>法人広報紙の配布の継続と共に、ホーム独自の便り等を発行し、入居者の健康面やホームの暮らしの状況を家族に伝えていくような取り組みも期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の要望や相談については、面会時に対応する機会が多い。苦情受付票の作成・目安箱を設け、利用者・家族が意見・要望・苦情を気軽に伝えられるよう勤め、運営に反映させる取り組みがある。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は日頃より職員から意見を聞き、運営に取り組んでいる。法人内でもグループホームは利用者と家族のことを考慮し、職員との馴染の関係を第一に考え、可能なかぎり異動がないよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外とも研修は年間計画に基づいて実施されている。参加者は研修内容を研修報告書にまとめて提出し、回覧することにより知識の習得に努めている。</p>		<p>外部研修等の受講後は、職員間での研修内容の共有の為に伝達研修の実施や報告書の確認の徹底が望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設間の交流は継続されているが、地域内での事業所間の連絡会等の設置がなく交流が難しい状況である。 町の主催で福祉関係で集っている月1回のチームケア会議に参加している。		市町等に働きかけ、市内の事業所間の交流を図るために連絡会などの設置を検討していく事が望まれる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者やケアマネジャーが施設での暮らしについて説明をし、納得の上見学を実施している。基本的に自宅訪問し、今までの暮らしに対する思いを理解できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個人の自立心、習慣を大事にしている。食事の用意、後片付け、洗濯等は個人ごとに役割が決まっており、職員はさりげなく見守り、力量に応じた支援をしている。生活用具も入居者が使いやすいよう工夫されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に職員が自宅訪問し、自宅での生活状態を理解するよう努めている。自宅での個人の習慣に基づき生活しやすいよう工夫されている。本人の思いや意向の把握が難しい場合は、家族からの情報を参考にし、日常での入居者の表情や行動から考えを汲み取っていくよう取り組んでいる。</p>		
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランに即したケアチェック表を利用し、定期的に見直しを行っている。家族とは訪問時にカンファレンスを開いて意見を聴取し、ケアに採り入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランは現在は6ヶ月～1年の期間で見直しを行っているが、さらに短期間で詳細に見直しができるよう検討中である。</p>		<p>定期的な介護計画の見直しが望まれると共に、家族への説明も確実に行っていくことが望まれる。また入居者の状態変化の兆しに迅速に対応していく為にも、月1回程度の計画の振り返りが望まれる。</p>
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力医やかかりつけ医への受診については、可能な限り職員が送迎していくよう努めている。入居者の入院時は送迎や面会・洗濯物のお世話等家族の状況に応じて臨機応変に対応し、早期退院にむけた支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月1回協力医の診察を実施し入居者の健康管理に取り組んでいる。入居者や家族の希望するかかりつけ医への通院支援があり、かかりつけ医や家族と共に入居者の健康状態について情報を共有し、連携を密にしていこう努めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在までにホームでのターミナルケアの経験はないが、入居者の急変時や状態変化に応じて、協力医や併設施設の看護師へ相談できる体制を整えている。家族へは入居時や本人の身体状況に応じて、重度化した場合についてのホームの方針を伝えている。</p>		<p>重度化・終末期のあり方についての施設の方針の明文化が図られ、マニュアルの作成及び職員研修の実施が望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入居者の人格を尊重し、一人ひとりとのコミュニケーションの中で、入居者と目線をあわせ優しい言葉掛けや対応ができるよう心掛けている。業務日誌等の記録時や事務所での保管については秘密保持に留意した対応がなされている。個人情報の保護について定期的な研修を実施している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の生活のリズムを整える為にホームでの生活の基本の流れはあるが、個々の入居者の今までの暮らしを把握し、本人のペースにそった支援ができるよう取り組んでいる。入居者の希望が出しやすい環境を整え柔軟な対応ができるよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は併設の施設から食材を搬入し、ホームで調理・盛り付け・配膳・後片付け等を行っている。入居者の関心や経験に配慮しながら食事作りを職員と共に行えるよう取り組んでいる。おやつ作りや外食の機会を設け入居者の希望も反映している。食器は陶器の温かみのある物を使用し、職員はさりげなく食べこぼし等のサポートを行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は夕方の時間帯が多いが、入居者の今までの生活習慣も取り入れ希望の日時に沿えるよう努めている。入浴拒否に対しては職員間で対処法を検討し個々にあった働きかけを試みている。入居者の身体状況の悪化に伴って併設施設の機械浴の利用も可能である。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>1日の生活の中にレクリエーションを適宜組み込み、脳トレ、塗り絵等を入居者の関心に沿って実施し、法人内で行っている陶芸教室・生け花・音楽療法などのクラブ活動への参加も支援している。ホーム前の菜園の水遣りや草引き・配膳や食器洗い・洗濯物干し等では本人の力が発揮できるよう、さりげない場面作りの工夫もある。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>地域の催しへの参加・外食・美容室へ行くなどの外出支援を行うとともに、併設施設の敷地内の売店での買物や散歩など日常的な外出の機会を作っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関は日中は開錠しており、入居者の自由を 尊重し行動を制限しないよう支援してい るが、安全面に配慮した入居者の見守り体制も 整えている。掃き出しの窓も開錠され、庭に 出て草花や野菜の世話が日課になっている入 居者もいる。身体拘束を行わないケアについ て定期的に研修を実施し、職員間の意識を高 めるよう取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日頃より地域の人々の協力を得ら れるよう働きかけている	消防署との連携で年に1回消防訓練を行って いる。更に法人内で夜間も想定した訓練を定 期的に実施している。今年度より地域住民の 協力を得た訓練を行い連携を図っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	入居者の体調や嗜好に応じ食事内容について 柔軟に対応できるよう取り組んでいる。一人 ひとりの栄養のバランスに偏りがないよう配 慮し食事摂取量は記録している。水分摂取に ついて必要性を認識しこまめな補給への配 慮が求められる。定期的に給食会議を開き栄 養士に入居者の要望等を伝える機会がある。		水分摂取に関して入居者の1日の大まかな 摂取量の把握に努め、入居者の状態変化等 に応じて摂取量の細かいチェックが必要な 場合等は記録に残し的確な対応ができるこ とが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の天井は吹き抜けの為明るく開放的である。温もりを感じさせる色調で統一された床や壁と暖色系の照明にて、入居者が穏かな時間が過ごせるよう工夫した造りとなっている。ホーム内はバリアフリーで、要所の手すりや車椅子利用が可能な広さを確保し、入居者の身体の状態変化に対応していけるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の趣味の作品や家族の写真、家族が飾った花や装飾品を持ち寄り、それぞれの個性を大切に落ち着ける空間となっている。畳のある和室とベッド利用の洋室の部屋があり、入居者の希望や身体状況にそって利用の支援を行っている。		

は、重点項目。